

北極域研究推進プロジェクト

1. 創設年度：平成27年度

2. 令和7年度予算額：7.1億円

3. 事業概要

北極域の急激な環境変化が我が国を含む人間社会に与える影響等の解明を目指すとともに、北極域の利用等に関する国際的ルール形成に資する科学的知見の提供等、我が国の強みを有する科学力に基づいた国内外社会への貢献を行い、我が国のプレゼンス向上を図る。

また我が国の北極域研究の発展に向けて、国際共同研究や若手研究者養成に取り組む等、北極域における研究を推進する。＜補助＞

4. 選定理由：イ（事業の規模が大きく、又は政策の優先度の高いもの）

本事業については、気候変動対策や北極海航路の利活用等の観点から政策的優先度が高く、これまでの成果や取組状況が、事業目的に照らして適切なものとなっているか、成果目標が事業成果の検証のために適切なものとなっているかなどの点について、公開の場で外部有識者の幅広い視点や専門性を活用して検証することで、今後の事業展開について検討していくことが有効であると考えられる。

5. 想定される論点

- ・事業をより効果的に展開するための今後の方針と在り方について。
- ・事業成果検証のために適切なアウトプット、アウトカムは設定されているか。

※ 成果指標（令和6年度）

（短期アウトカム）・国際共同研究参画者数（人）

（長期アウトカム）・国際的な枠組みへの日本人研究者等の参画状況（人）

背景・課題

- 北極域は、地球温暖化の影響が最も顕著に現れている地域で、かつこれまで観測されたことがない環境変動が現れている地域。急激な海氷減少や氷床融解などの変化は、北極域にとどまらず、我が国を含む地球全体の環境や生態系に大きな影響を与える
- 一方、未だに北極域には観測データの空白域や乏しい領域が存在し、それが気候変動予測を大きく制約することなどが課題。そのため、継続的な観測・研究を着実に実施するとともに、空白域を解消し、日本への遠隔影響を含む災害の防止等の社会課題解決型研究の推進に取り組むことが重要



目的

- 気候変動などの地球規模課題や北極域の変動が我が国を含む人間社会に与える影響等の解明を目指すとともに、観測・研究成果を国内外のステークホルダーに提供することにより、北極域の利用等に関する国際的ルール形成に資する等、我が国が強みを有する科学力に基づいた国内外社会への貢献を行い、我が国のプレゼンス向上を図る

事業内容

これまでのプロジェクトで整備された観測拠点、北極域研究船、観測衛星及びデータアーカイブシステム(ADS)等の研究基盤を駆使して、地球温暖化の影響が最も顕著かつこれまで観測されたことがない環境変動が現れている北極域について、先端的な技術も積極的に活用した観測・研究を更に戦略的かつ強力に推進。

①「みらいⅡ」の国際研究プラットフォームとしての活用や人材育成等による研究基盤の強化

- ・ 国際連携拠点の観測機器等の強化や拠点自体の整備・強化による観測網を強化や、戦略的な国際連携の促進
- ・ 北極域研究船「みらいⅡ」を国際研究プラットフォームとして活用した、多様な人材の乗船機会を確保した共同研究等の実施、国際的な人的交流(派遣・受入れ)の強化等を実施

②観測データの空白域・空白時期の解消に向けた観測の着実な継続・強化

- ・ 国際連携拠点や「みらい」「みらいⅡ」等を活用した継続的な観測を着実に実施
- ・ 先端的な技術等を活用した観測の強化等による観測データの充実や、森林火災、永久凍土融解等の未解明な部分が多い環境変動の解明等に資する多様な観測・研究の実施

③社会課題の解決に資する研究の実施、情報発信

- ・ 北極域の環境変動が他地域に及ぼす影響や環境変動が地域住民やグローバルにもたらす影響等について出口を見据えた人文・社会・自然科学間の分野横断的な研究の実施
- ・ 北極域の環境変動が我が国を含む中緯度地域等に及ぼす影響の研究、災害等の早期警戒につながる情報の創出

【研究基盤の例】



(「みらい」、「みらいⅡ」)

(国際連携拠点)

期待される成果

- 気候変動予測の高度化、北極域の気候変動等が日本に与える影響の解明、未解明な部分が多い環境変動の解明など、我が国社会が裨益する課題の解決に資する情報の創出
- 国内外の研究者をはじめとする多様な人材育成、国際ルール形成への積極的な参画、首脳会談等で言及される政府間連携への貢献など、我が国の国益に資する国際協力の推進等による我が国のプレゼンスの向上

プロジェクトの体制図

代表機関：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所

副代表機関：国立研究開発法人 海洋研究開発機構

副代表機関：国立大学法人 北海道大学

研究代表者：羽角博康

副研究代表者：猪上 淳

副研究代表者：菊地 隆

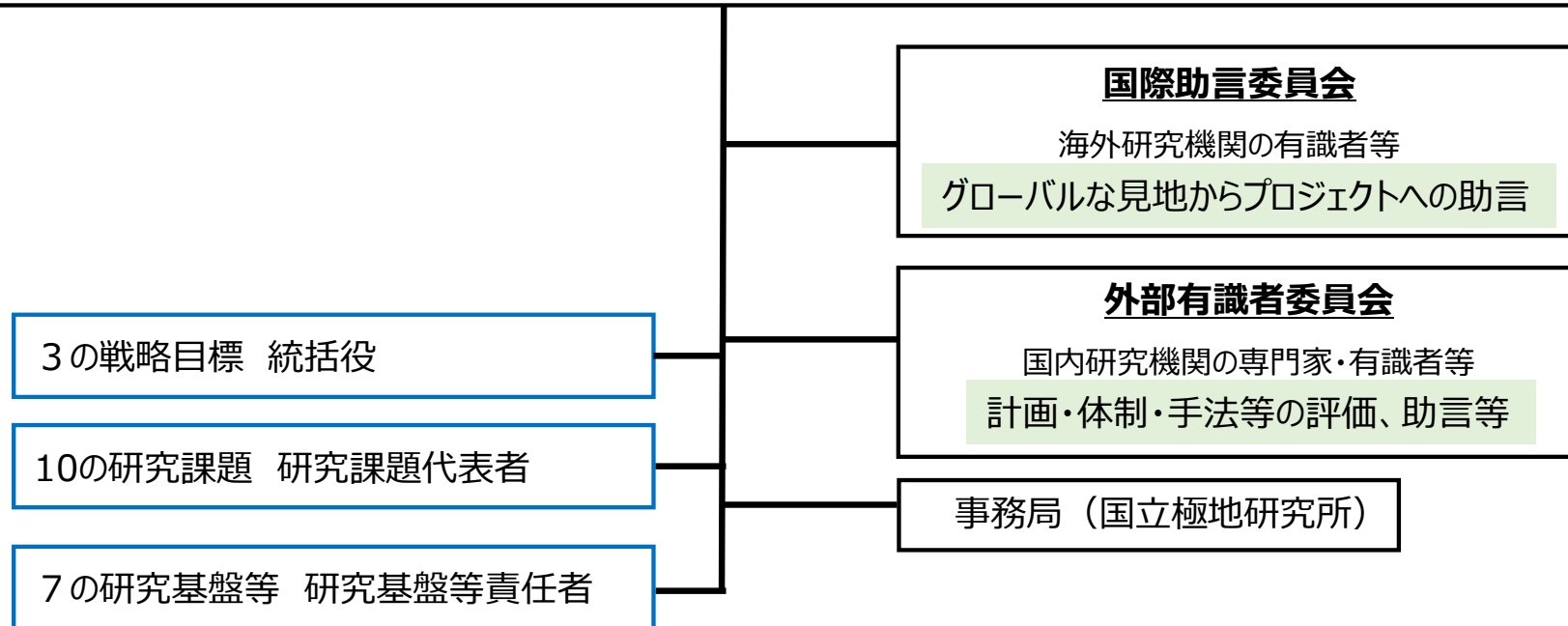
副研究代表者：杉山 慎

ArCSⅢ運営会議

委員長：PD 羽角博康（極地研（東大））

委員：SPD 猪上淳（極地研）、菊地隆（JAMSTEC）、杉山慎（北大）、PD補佐 末吉哲雄（極地研）

プロジェクトの運営、計画・体制・手法の妥当性などの自己点検



- ・PD・SPDは、一つの研究課題が複数の戦略目標の達成に関与し、分野横断型の研究を活性化できるようにする。
- ・SPDはトップダウン的に、統括役は研究課題の相談的立場でボトムアップ的に研究課題にあたる。

北極域研究推進プロジェクト

基本情報

組織情報	府省庁	文部科学省				
	事業所管課室	文部科学省 研究開発局 海洋地球課				
	作成責任者	中川尚志				
	その他担当組織	--				
基本情報	予算事業ID	001697	事業開始年度	2015	事業終了（予定）年度	2029
	事業年度	2024		事業区分	前年度事業	
政策・施策	政策所管	政策	施策		政策体系・評価書URL	
	文部科学省	9未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応		9－5 国家戦略上重要な基幹技術の推進		https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_9-5.pdf
関連事業	--			主要経費	科学技術振興費	
概要・目的	事業の目的	持続可能な社会の実現に向けて、北極の急激な環境変化が我が国を含む人間社会に与える影響を評価し、社会実装を目指すとともに、北極における国際的なルール形成のための法制的な対応の基礎となる科学的知見を国内外のステークホルダーに提供することを目的に、北極域の環境変化の実態把握とプロセス解明、気象気候予測の高度化・精緻化などの先進的な研究を推進する。				
	現状・課題	北極域は、気候変動の影響が最も顕著に表れる地域であり、北極域の環境の急激な変化は北極域にとどまる問題ではなく地球全体の環境や生態系に大きな影響を与えることが懸念される一方で、海水の減少に伴い、北極海航路や新たな資源開発の可能性への期待も高まり、世界的な注目を集めている。しかし、北極域の科学データは不足しており、科学的理解が未だ十分でないため、ステークホルダーが環境保全を前提としつつ北極域の持続可能な利用のあり方を考える上で必要な科学的知見を蓄積することが必要となる。				
	事業の概要	持続可能な社会の実現に向けて、北極の急激な環境変化が我が国を含む人間社会に与える影響を評価し、研究成果の社会実装を目指すとともに、北極における国際的なルール形成のための法政策的な対応の基礎となる科学的知見を国内外のステークホルダーに提供する。このために、北極域の環境変化の実態把握とプロセス解明、気象気候予測の高度化・精緻化などの先進的な研究を推進する。本事業では、4つの戦略目標（「先進的な観測」、「予測の高度化」、「社会への影響評価」、「社会実装の試行・法政策的対応」）を設定し、北極圏国に国際連携拠点を整備するほか、国際的に関心が高く、また日本の強みが活かせる分野での国際共同研究を実施するとともに、我が国の強みである科学的知見をもって、北極評議会作業部会等の会議にて日本の取組みを示していくことにより、国際社会に貢献し、北極圏国との関係を構築していくことが重要である。さらに、我が国の北極研究の発展に向けて若手研究者養成に取り組む、北極域における研究を推進する。				
	事業概要URL	https://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/hokkyoku/ArCS2.htm				
根拠法令	法令名	法令番号		条	項	号・号の細分
	--	--		--	--	--

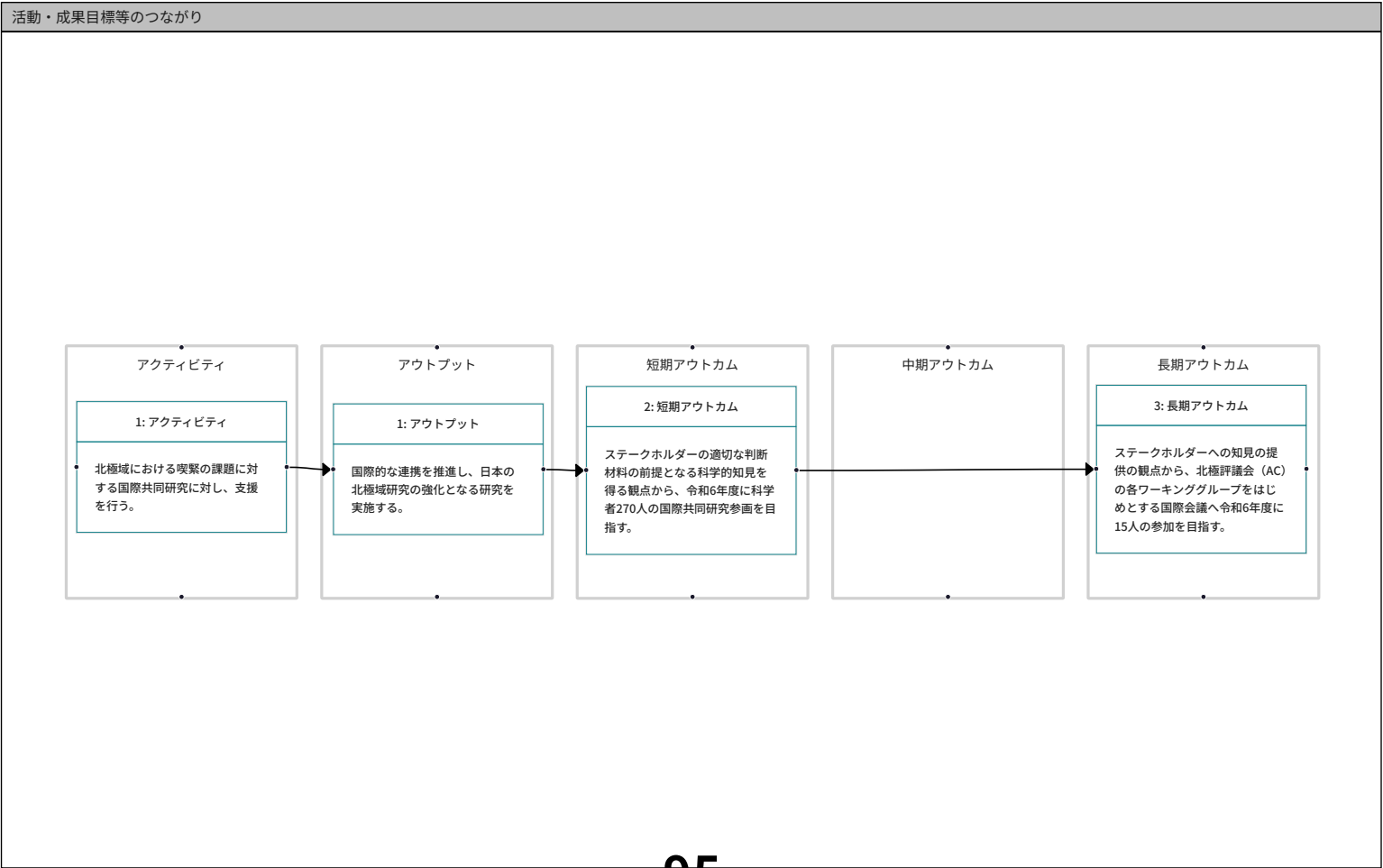
関係する計画・通知等	計画・通知名		計画・通知等URL		
	第4期海洋基本計画(令和5年4月閣議決定)		https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/plan/plan04/plan04.html		
	第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月閣議決定）		https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html		
	我が国の北極政策(平成27年10月総合海洋政策本部決定)		https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/arcticpolicy/pdf/japans_ap.pdf		
	G7仙台科学技術大臣会合共同声明(令和5年5月開催)		https://www8.cao.go.jp/cstp/kokusaiteki/g7_2023/230513_g7_kariyaku.pdf		
	第3回北極科学大臣会合共同声明(令和3年5月開催)		https://www.mext.go.jp/content/20220331-mxt_kaiyou-000012881-01.pdf		
	統合イノベーション戦略2023（令和5年6月閣議決定）		https://www8.cao.go.jp/cstp/tougosenryaku/2023.html		
実施方法	補助				
補助率等	補助対象	補助率	補助上限等	補助率URL	
	--	課題実施機関が実施する事業に係る経費について定額で補助。（公募時上限950百万円、年度予算により変動あり）	--	--	
備考	--				

予算・執行

予算額執行額表 (単位：千円)			2021	2022	2023	2024	2025
	要求額		--	1,092,501	1,104,946	1,004,946	1,009,846
	当初予算		953,992	1,004,946	1,004,946	804,846	--
	補正予算		--	--	--	--	--
	前年度から繰越し		84,240	2,827	--	--	--
	予備費等		--	△100	--	--	--
	計		1,038,232	1,007,673	1,004,946	804,846	--
	執行額		1,023,276	1,006,998	1,003,041	--	--
	執行率		98.6%	99.9%	99.8%	--	--

予算内訳表 (単位：千円)	会計区分	会計	勘定	要望額		備考	
	一般会計	一般会計	--	1,009,846		--	
		予算種別/歳出予算項目			備考	予算額	翌年度要求額
		当初予算	一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 研究開発推進費 / 環境技術等研究開発推進事業費補助金			802,613	1,007,613
		当初予算	一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 研究開発推進費 / 職員旅費			1,115	1,115
		当初予算	一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 研究開発推進費 / 委員等旅費			615	615
		当初予算	一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 研究開発推進費 / 諸謝金			294	294
		当初予算	一般会計 / 文部科学省 / 文部科学本省 / 研究開発推進費 / 庁費			209	209
	主な増減理由		海外に新しい観測拠点整備のため。		その他特記事項	--	

効果発現経路



アクティビティからの発現経路 1-1-2-3

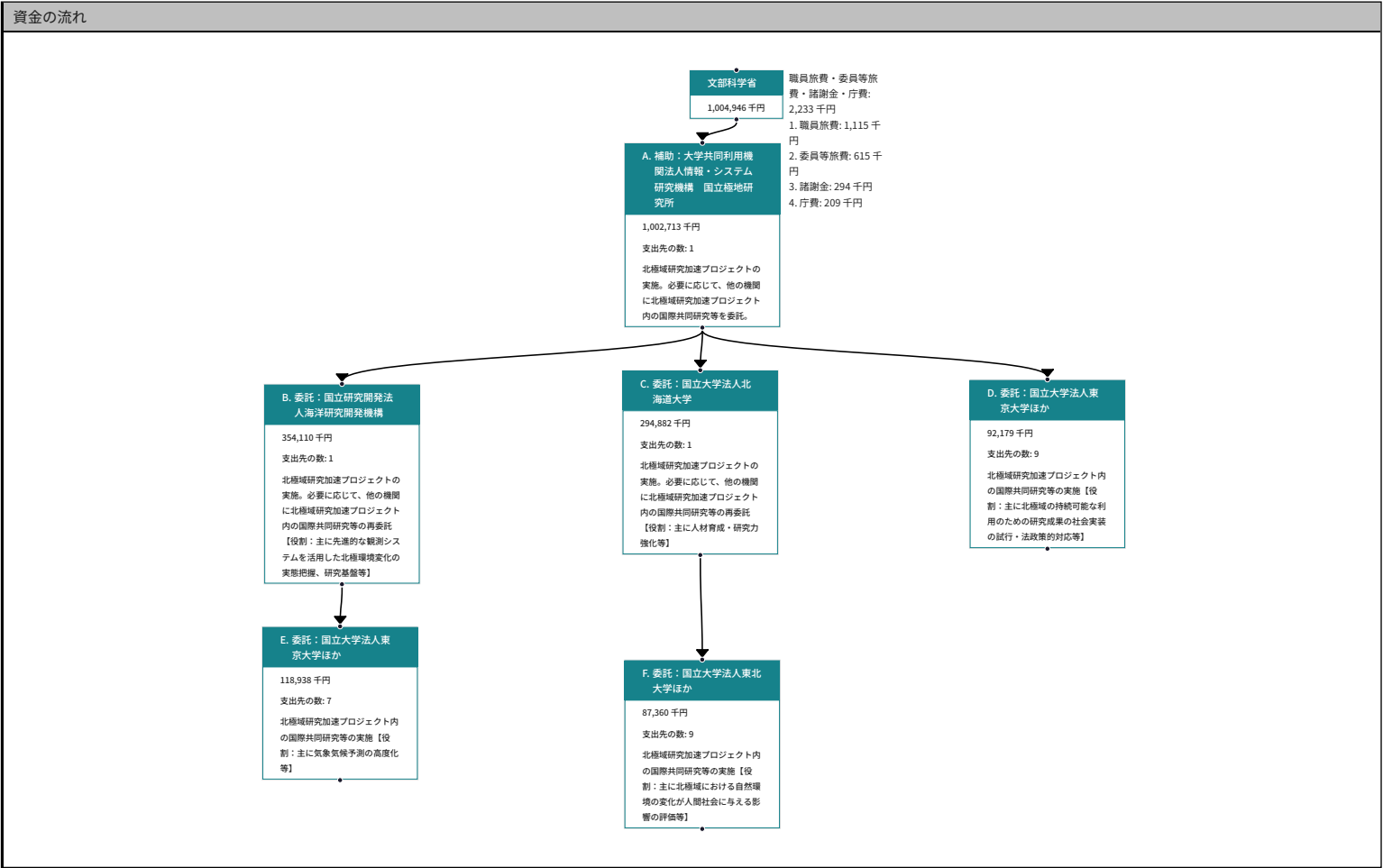
アクティビティ	北極域における喫緊の課題に対する国際共同研究に対し、支援を行う。				
アウトプット	活動目標	国際的な連携を推進し、日本の北極域研究の強化となる研究を実施する。		活動指標	国際共同研究の課題数
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	--
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--
活動・成果目標と実績		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	当初見込み／目標値(件)	11	11	11	11
	活動実績／成果実績(件)	11	11	11	--
↓ 後続アウトカムへのつながり	「北極域における喫緊の課題に対する国際共同研究に対し、支援を行う。」というアクティビティに対し、国際的な連携を推進し、日本の北極域研究の強化となる研究を実施するため、国際共同研究の課題数の増減は、北極に領土を持たない日本にとって必須事項であり、国際的に関心が高く、また日本の強みが活かせる分野での科学的知見をもって国際的プレゼンスを高めることを示す指標となっている。北極域の国際的な研究参画者数の増減は、その先の北極域研究の後継者育成につながる客観的な指標であるとし、アウトカム指標に設定している。				
短期アウトカム	成果目標	ステークホルダーの適切な判断材料の前提となる科学的知見を得る観点から、令和6年度に科学者270人の国際共同研究参画を目指す。		成果指標	国際共同研究参画者数
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	事業実施機関へのヒアリング
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--
活動・成果目標と実績		2021年度	2022年度	2023年度	目標年度 2024年度
	当初見込み／目標値(人)	250	250	270	270
	活動実績／成果実績(人)	220	240	260	--
	達成率(%)	88	96	96.3	--
↓ 後続アウトカムへのつながり	北極域研究の推進にあたっては、特に北極圏国との関係が重要であり、北極圏国によって設置されたハイレベルフォーラムである北極評議会（AC）に対して、日本はワーキンググループ等に参画し、研究で得られた知見を提供し、貢献してきている。多数の国際的な研究者が参画した国際共同研究の成果は、北極における国際的なルール形成のための法政策的な対応の基礎となる科学的知見となる。日本の研究者が国際共同研究に参画し得られた知見をもって、これらのACのワーキンググループワーク等の国際会議へ参画し提供することは、日本の北極域での国際プレゼンスを高め、社会に向けた情報発信を行うとともに、国際貢献につながる。				

長期アウトカム	成果目標	ステークホルダーへの知見の提供の観点から、北極評議会（AC）の各ワーキンググループをはじめとする国際会議へ令和6年度に15人の参加を目指す。		成果指標	国際的な枠組みへの日本人研究者等の参画状況
	定性的なアウトカムに関する成果実績	--		実績／目標／見込みの根拠として用いた統計・データ名（出典）	事業実施機関へのヒアリング
	定性的なアウトカム目標を設定している理由	--		アウトカムを複数段階で設定できない理由	--
活動・成果目標と実績		2021年度	2022年度	2023年度	最終目標年度 2024年度
	当初見込み／目標値(人)	25	25	20	15
	活動実績／成果実績(人)	23	19	13	--
	達成率(%)	92	76	65	--
事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名前	第4期海洋基本計画			
	URL	https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/plan/plan04/pdf/keikaku_honbun.pdf			
	該当箇所	P.77			

点検・評価

事業所管部局による点検・改善	点検結果	各国が北極戦略を打ち出し政策を推進する中、我が国も国際プレゼンス向上を図るため、ステークホルダーに適切な科学的知見を提供できる研究を国として推進する必要がある。また、事業の効率性や有効性については、外部評価委員会等による評価を行うことで、事業の効率的な実施が図れる仕組みが担保されており、効率性や有効性の高い事業遂行に努めている。アクティビティ①に関しては短期アウトカムについて、令和4年度から20人増加して260人となっており、目標達成に近づいていると考えられる。長期アウトカムについては、本事業としてAC作業部会(※)に参加しており、我が国としても国際貢献が出来る。しかしながら、ロシア情勢を踏まえAC作業部会(※)が実地開催されないことなどもあり、令和4年度から6名減の13名の参加となっている。国際情勢を見極めながら、目標最終年度として、一層の参画に取組んでいく。(※北極評議会の下部に設置されている作業部会)		
	目標年度における効果測定に関する評価	令和7年度実施		
	改善の方向性	上記の点検結果を踏まえつつ、本事業の目的を達成するため、計画策定・検討に反映させながら予算を効果的かつ適切に執行する。		
外部有識者による点検	点検対象	書面点検	最終実施年度	2024
	対象の理由	5年間外部有識者点検を実施していない事業		
	所見	事業目的は明確であり、施策目標の達成手段として適切なものとなっている。成果指標等については、成果を捕捉できる指標が不足していることから、一層の工夫・改善が必要である。 成果目標値についても、過年度実績を踏まえ、より意欲的な目標値を設定することを検証・検討すべきである。 別資料に記載されている戦略目標を基に、レビューシートの事業の概要やアクティビティ、成果指標を見直す必要があるのではないか。 また、支出先上位リストの「入札者数」や「事業における役割分担」等をより具体的に記載する必要がある。		
	公開プロセス結果概要	--		
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見	所見	事業内容の一部改善	詳細	本事業は外部有識者の指摘を踏まえ、事業の成果を適切に測るため一層の工夫・改善が必要である。また、支出先の選定支出先上位リストの「入札者数」等の情報を具体的に記載して国民に発信するとともに、競争性の確保のために十分な検証を行い、改善に向けて具体的に取組まれたたい。
所見を踏まえた改善点／概算要求における反映状況	改善点・反映状況	現状通り		
	反映額	会計	勘定	反映額(千円)
		--	--	--
	詳細	外部有識者からの指摘については概要、入札者数、事業における役割分担については追記を実施。指摘のあったアクティビティ、成果指標については、次年度以降、北極域研究における有識者で構成する北極域研究推進プロジェクト推進委員会において見直しやプロジェクト内容の更新を検討していく。		
公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)における取りまとめ	--			

支出先



支出先上位者リスト (単位：千円)	支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割		
	A 補助：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所		1,002,713	1	北極域研究加速プロジェクトの実施。必要に応じて、他の機関に北極域研究加速プロジェクト内の国際共同研究等を委託。		
		支出先名	支出額	法人番号			
		大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	1,002,713	1012805001385			
		契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
		補助 補助金等交付	1,002,713	1	100	-	
	支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割		
	B 委託：国立研究開発法人海洋研究開発機構		354,110	1	北極域研究加速プロジェクトの実施。必要に応じて、他の機関に北極域研究加速プロジェクト内の国際共同研究等の再委託【役割：主に先進的な観測システムを活用した北極環境変化の実態把握、研究基盤等】		
		支出先名	支出額	法人番号			
		国立研究開発法人海洋研究開発機構	354,110	7021005008268			
		契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
		委託 随意契約（その他）	354,110	1	100	-	
		支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割	
	C 委託：国立大学法人北海道大学		294,882	1	北極域研究加速プロジェクトの実施。必要に応じて、他の機関に北極域研究加速プロジェクト内の国際共同研究等の再委託【役割：主に人材育成・研究力強化等】		
		支出先名	支出額	法人番号			
		国立大学法人北海道大学	294,882	6430005004014			
		契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
		委託 随意契約（その他）	294,882	1	100	--	
		支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割	
	98						

	D	委託：国立大学法人東京大学ほか	92,179	9	北極域研究加速プロジェクト内の国際共同研究等の実施【役割：主に北極域の持続可能な利用のための研究成果の社会実装の試行・政策的対応等】			
		支出先名		支出額	法人番号			
		国立大学法人東京大学		24,200	5010005007398			
		契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
		委託 随意契約（その他）		24,200	0	0	--	
		支出先名		支出額	法人番号			
		国立大学法人神戸大学		21,881	5140005004060			
		契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
		委託 随意契約（その他）		21,881	0	0	--	
		支出先名		支出額	法人番号			
		国立大学法人東海国立大学機構		16,550	3180005006071			
		契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
		委託 随意契約（その他）		16,550	0	0	--	
		支出先名		支出額	法人番号			
		国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構		8,257	9012405001241			
		契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
		委託 随意契約（その他）		8,257	0	0	--	
		支出先名		支出額	法人番号			
		国立大学法人千葉大学		6,849	2040005001905			
		契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	

	委託 随意契約（その他）	6,849	0	0	--	
	支出先名	支出額	法人番号			
	国立大学法人東北大学	5,000	7370005002147			
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
	委託 随意契約（その他）	5,000	0	0	--	
	支出先名	支出額	法人番号			
	国立大学法人東京大学	5,000	5010005007398			
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
	委託 随意契約（その他）	5,000	0	0	--	
	支出先名	支出額	法人番号			
	国立大学法人東京大学	3,242	5010005007398			
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
	委託 随意契約（その他）	3,242	0	0	--	
	支出先名	支出額	法人番号			
	国立大学法人東北大学	1,200	7370005002147			
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由	
	委託 随意契約（その他）	1,200	0	0	--	
	支出先ブロック名		合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割	
	E	委託：国立大学法人東京大学ほか	118,938	7	北極域研究加速プロジェクト内の国際共同研究等の実施【役割：主に気象気候予測の高度化等】	
		支出先名	支出額	法人番号		
	国立大学法人東京大学	55,551	5010005007398			

	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	55,551	0	0	--
支出先名		支出額	法人番号		
国立大学法人東京大学		21,670	5010005007398		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	21,670	0	0	--
支出先名		支出額	法人番号		
国立大学法人東京大学		20,823	5010005007398		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	20,823	0	0	--
支出先名		支出額	法人番号		
国立大学法人新潟大学		8,587	3110005001789		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	8,587	0	0	--
支出先名		支出額	法人番号		
公立大学法人大阪		8,050	5120005020803		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	8,050	0	0	--
支出先名		支出額	法人番号		
学校法人福岡工業大学		2,750	6290005001273		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由

	委託 随意契約（その他）	2,750	0	0	--
	支出先名	支出額	法人番号		
	国立大学法人富山大学	1,507	4230005003054		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	1,507	0	0	--
	支出先ブロック名	合計支出額	支出先数	事業を行う上での役割	
	F 委託：国立大学法人東北大学ほか	87,360	9	北極域研究加速プロジェクト内の国際共同研究等の実施【役割：主に北極域における自然環境の変化が人間社会に与える影響の評価等】	
	支出先名	支出額	法人番号		
	国立大学法人東北大学	14,980	7370005002147		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	14,980	0	0	--
	支出先名	支出額	法人番号		
	国立大学法人三重大学	14,960	2190005003044		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	14,960	0	0	--
	支出先名	支出額	法人番号		
	国立大学法人北海道国立大学機構	14,006	9460105001715		
	契約概要（契約名）/契約方式等	支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）	14,006	0	0	--
支出先名	支出額	法人番号			

	国立大学法人大阪大学		9,844	4120905002554		
	契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）		9,844	0	0	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立大学法人東京大学		9,030	5010005007398		
	契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）		9,030	0	0	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所		8,813	5012405001732		
	契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）		8,813	0	0	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	学校法人工学院大学		7,977	4011105000921		
	契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）		7,977	0	0	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	国立大学法人京都大学		5,000	3130005005532		
	契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）		5,000	0	0	--
	支出先名		支出額	法人番号		
	学校法人国際大学		2,750	2110005013133		

	契約概要（契約名）/契約方式等		支出額	入札者数	落札率(%)	一者応札等の理由と改善策／落札率非公開の理由
	委託 随意契約（その他）		2,750	0	0	--

費目・使途 (単位：千円)		支出先名	契約概要（契約名）		費目	使途	金額
	A	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	補助		委託費	海洋研究開発機構・北海道大学等	749,471
	--	--	--		人件費・謝金	国際共同研究等の委託	104,640
	--	--	--		その他	国際共同研究に伴う外注費、印刷製本費、会議費、通信運搬費、その他諸経費	99,028
	--	--	--		旅費	国際共同研究に伴う旅費	36,352
	--	--	--		物品費	各拠点整備における設備の調達	13,222
	B	国立研究開発法人海洋研究開発機構	委託		その他	国際共同研究に伴う外注費、通信運搬費、その他諸経費等	137,145
	--	--	--		委託費	東京大学、新潟大学等	118,938
	--	--	--		人件費・謝金	国際共同研究に伴う人件費・謝金	45,563
	--	--	--		一般管理費	事業管理費	32,192
	--	--	--		旅費	国際共同研究に伴う旅費	17,637
	--	--	--		物品費	各拠点整備における設備の調達	2,635
	C	国立大学法人北海道大学	委託		委託費	三重大学、東北大学等	87,360
	--	--	--		旅費	国際共同研究に伴う旅費	75,406
	--	--	--		人件費・謝金	国際共同研究に伴う人件費・謝金	67,572
	--	--	--		その他	国際共同研究に伴う外注費、通信運搬費、その他諸経費等	52,974
	--	--	--		物品費	各拠点整備における設備の調達	11,570
	D	国立大学法人東京大学	委託		人件費・謝金	国際共同研究に伴う人件費・謝金	7,852
	--	--	--		その他	国際共同研究に伴う外注費、通信運搬費、その他諸経費等	6,864
	--	--	--		物品費	各拠点整備における設備の調達	6,584
	--	--	--		一般管理費	事業管理費	2,200
	--	--	--		旅費	国際共同研究に伴う旅費	700
	E	国立大学法人東京大学	委託		人件費・謝金	国際共同研究に伴う人件費・謝金	36,577
	--	--	--		その他	国際共同研究に伴う外注費、通信運搬費、その他諸経費等	9,061
	--	--	--		一般管理費	事業管理費	5,050
	--	--	--		旅費	国際共同研究に伴う旅費	3,372
	--	--	--		物品費	各拠点整備における設備の調達	1,491

		支出先名	契約概要（契約名）		費目	使途	金額
	F	国立大学法人東北大学	委託		旅費	国際共同研究に伴う旅費	8,955
	--	--	--		人件費・謝金	国際共同研究に伴う人件費・謝金	4,406
	--	--	--		その他	国際共同研究に伴う外注費、通信運搬費、その他諸経費等	1,319
国庫債務負担行為等による契約先リスト (単位：千円)	--	契約先名	--	契約額	物品費	法人番号	300
		--		--	--		

